

## 書くまえに...

### ① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。〇〇語(母語)でも書いたことがありますか。  
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書くかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

### ② 課題の紙を見せて、わかったかどうか確認する。



問題を見てください。何を書くかわかりましたか。

- ・質問があれば答える。

### ③ 原稿用紙の使い方がわかっているかどうか確認し、書く前のメモを勧める。



では、学校紹介を書いてください。原稿用紙1枚に書いてください。  
時間は□□までです。いいですか。

- ・原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。



書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。  
絵を描いてもかまいません。

## 書きましょう...

### ① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例) <課題について詳しく話し合う>



では、まず書くことのメモを作りましょう。どの学校について書きますか。  
学校では、どんなことをしますか。…それから何がありますか。

- ・まず、作文を書いたことのある行事などについて思い出させたり、毎日の日課のことなど、思いつくものを挙げていって、メモさせる。
- ・次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。



一番はじめに何を書いたらいいと思いますか。  
この学校のいいところは何だと思いますか。  
他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。  
最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>



書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- ・言葉がわからなかったり、表現で困って質問してきたときは答える。
- ・内容について相談してきたときは、答えを与えるのではなく、「一番知らせたいことは何ですか」「読んだ人が面白いと思うことは何ですか」などの声かけで答えを引き出す。

## 書いたあとで ...

### ① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。  
では、見せてください。

### ② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。  
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。  
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。  
★書き直させる必要はない。

### ③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。  
読んだ人が一番面白いと思うのはどこだと思いますか。  
読んだ人は、この学校のことをどう思うと思いますか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。

### ④ 振り返りを行う。



よくがんばりましたね。これを読んだら学校のことがよくわかるでしょう。  
とても上手に書けました。  
これで終わりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。  
「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にほめるとよい。  
対話でたくさん話せた場合は、「話も上手でした。」のようにほめるとよい。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましようね。

### メモ:

この課題は持っている情報を整理して必要なことを抜き出し、構成を考えて書くことが要求される。いっしょにメモを作ったり、書くことを選んで構成を考えるなどの段階を踏んで書けるとよい。また、書いた後の対話で、読み手を意識したり、よりわかりやすい伝え方を考えたりといった点を、次回以降の課題として意識させる。